

教 指 第 9 7 8 号
平成14年(2002年)9月26日

各市町村教育委員会教育長
各 教 育 事 務 所 長 様
大島郡教育事務協議会長
各 公 立 高 等 学 校 長

山口県教育委員会教育長

中・高等学校の連携を図った高等学校中途退学の
未然防止について（通知）

平素から、生徒指導上の諸問題への対応について特段の配慮をいただき、御礼申し上げます。

さて、平成13年度高等学校における中途退学者数等の状況調査結果によりますと、本県においては、公・私立高等学校を併せて1,129人と深刻な状況にあります。また、退学率についても2.3%（全国平均2.6%）と高い数値を示しています。

このような状況に鑑み、中途退学の未然防止に向け、中学校、高等学校の関係者が連携を図り、取組みを進める必要があります。なかでも、中学校においては進路指導の充実を図るとともに、高等学校においては適応指導や教育相談の充実を図ることなどが求められています。

については、下記事項に留意の上、中・高等学校が効果的な連携を行うとともに、各学校において中途退学の未然防止に一層取り組むよう御指導願います。

なお、参考資料として、「平成13年度生徒の中途退学・懲戒処分等に関する調査」などからまとめた「高等学校中途退学の未然防止に向けた実効的な取組みについて」及び平成14年8月28日付け文部科学省14初児生第14号「平成13年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（速報）」の中途退学に関するデータを添付しますので、各校の取組みや中途退学率の検証等に活用願います。

記

1 高等学校中途退学の未然防止に向けた中学校の取組みについて

(1) 進路指導の充実

- 生徒が自己の個性と将来の生活についての理解を深め、中学生にふさわしい夢や希望を育むことができるよう進路指導の充実を図る。
- 生徒が、将来の生き方に照らして高等学校で学ぶ意義を理解し、目的をもって進学したい学校を選択するよう指導・援助する。
- 特に、体験入学等を活用し、志望する高等学校の教育内容や校風についての理解を進め、自分の意志で進路決定するよう促す。

(2) 高等学校と連携した取組み

- 新入生の入学後、速やかに情報交換を行い、入学直後の学校不適應等の

未然防止を図る。

- 個々の事例に即し、出身中学校と高等学校が連携を図り、生徒の適切な指導・援助に努める。

2 高等学校中途退学の未然防止に向けた高等学校の取組みについて

(1) 適応指導・教育相談の充実

- 入学時における適応指導の充実を図る。
- 生徒一人一人の理解に努めるとともに、その上に立った教育相談を計画的・継続的に行う。

(2) 進路指導の充実

- 生徒が将来への夢や希望、目的意識を育み、主体的に進路選択できるようガイダンスの機能を充実するなど、計画的・継続的な進路指導を行う。
- 特に、インターンシップ、高大連携等、進路に関する啓発的な体験活動を積極的に組み入れ、早期に生徒の進路意識の醸成を図る。
- 進路や生き方に関する生徒・保護者の希望や意識を的確に把握するとともに、継続的な進路相談を実施し、生徒の自己指導能力の発達を促す。

(3) 校則の内容や運用の見直し

- 生徒の実態、保護者の考え方、地域の実情、社会の変化等に応じて、常に校則を見直す。
- 生徒の懲戒指導は、生徒の個々の状況に十分留意し、教育的効果をもつよう配慮する。

(4) 教育課程の改善、教務内規の見直し

- 生徒の能力・適性、興味・関心、進路に応じた幅広い選択が可能な教育課程の編成に努める。
- 卒業までの修得単位数や進級・卒業の認定規定等を見直し、弾力化する。

(5) 中学校と連携した取組み

- 新入生の入学後、速やかに情報交換を行い、入学直後の学校不適應等の未然防止を図る。
- 入学後の生徒の中途退学問題や不登校等学校不適應については、事例に即して、出身中学校と連携を図り、生徒の適切な指導・援助に努める。

(6) 退学後の指導の充実

- 退学後の進路の相談や追指導の充実に努めるなど、継続的な支援を図る。

(7) その他

- 中学生対象の一日体験入学を開催し、模擬授業等の体験的な活動を実施するなどして、一層の学校理解を図る。
- 自らの在り方生き方を考えたり、人間関係づくりを進めるホームルーム活動等を計画的に展開する。
- 問題行動等の指導に当たっては、自らを振り返る機会を何度も与え、粘り強い指導をし、退学の防止に努める。